

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成 28 年 3 月 17 日 (2016.3.17)

【公開番号】特開 2016-20591 (P2016-20591A)

【公開日】平成 28 年 2 月 4 日 (2016.2.4)

【年通号数】公開・登録公報 2016-008

【出願番号】特願 2014-144830 (P2014-144830)

【国際特許分類】

E 0 4 H 9/14 (2006.01)

【F I】

E 0 4 H 9/14 Z

E 0 4 H 9/14 F

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 12 月 15 日 (2015.12.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

以上のような構成を有する避難通路 1 1 は、例えば内径が 3 m の管体 1 6 を用いることによって、歩道 1 7 の幅員を 2 . 2 m とし、高さを 2 . 5 m として、十分に避難者が歩行することができる空間を確保することができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 2】

図 7 及び図 8 に示すように、浮上型のシェルタ 3 0 は、上述した避難通路 1 1 等に用いられた管体 1 6 と同様な、管体 3 1 が用いた管構造物である。シェルタ 3 0 において、管体 3 1 は、一本であってもよいし、用途に応じて、複数本を、管軸を一致させて、樹脂溶接等で接続したものであってもよい。このような管体 3 1 は、その両側面の開口が閉塞板 3 2 で溶接等で閉塞され、内部の空間部 3 3 に水が浸入しないようになっている。この密閉された管体 3 1 は、例えば、外径が 3 . 3 m で長さが 1 0 m の断面円形状の管が用いられている。管体 3 1 は、上述の管体 1 6 と同様、熱可塑性樹脂、ここでは高密度ポリエチレンが用いられ、上述した図 4 や図 5 の各図に示した構造のものが用いられる。高密度ポリエチレン等の熱可塑性樹脂でも、比重が水より小さいものを選択することで、水に浮くものとなり、また、軽量であることから、持ち運びも便利となる。更に、この中でも、管体 3 1 は、水面で浮遊するシェルタであることから、中空部 1 6 c , 1 6 e を有する断熱性に優れた管体が好ましい。